

目 次 RESEARCH IN EXERCISE EPIDEMIOLOGY VOL.10

巻頭言 運動疫学の10年を振り返って

井上 茂 (東京医科大学公衆衛生学)

原 著 地域在住脳血管疾患患者における歩行時の外乱刺激に対する姿勢制御反応……………1
酒井 美園 (北里大学大学院医療系研究科) ほか

追 悼 パффエンバーガー先生を偲んで……………9
下光 輝一 (東京医科大学公衆衛生学)

第10回学術集会 (テーマ: 変革期の時代, 運動疫学の今後を語ろう)

第10回運動疫学研究会学術集会開催報告……………12
内藤 義彦 (武庫川女子大学生生活環境学部)

【ウェルカムレクチャー】運動疫学セミナーとは……………14
荒尾 孝 (早稲田大学スポーツ科学学術院)

【シンポジウム: 今, 運動関連専門職に求められているもの—運動疫学セミナーの役割】

今, 運動関連専門職に求められているもの—運動疫学セミナーの役割……………16
北畠 義典 (財団法人 明治安田厚生事業団体力医学研究所)
井上 茂 (東京医科大学公衆衛生学)

運動疫学セミナーの役割—体育・健康づくり分野……………17
萩 裕美子 (鹿屋体育大学体育学部)

運動疫学セミナーの役割—保健・健康づくり分野……………18
神野 宏司 (東洋大学ライフデザイン学部)

運動疫学セミナーに参加して—理学療法分野での活用—……………20
小野 玲 (神戸大学医学部)

地域保健分野で求められる運動疫学とは……………21
久保田晃生 (静岡県総合健康センター)

【特別講演】職域における運動・身体活動に関する取り組みと疫学研究……………23
岡田 邦夫 (大阪ガス株式会社人事部健康開発センター)

【シンポジウム: 10回目を迎えた運動疫学研究会の今後のあり方】

運動疫学研究会の10年を総括して……………25
荒尾 孝 (早稲田大学スポーツ科学学術院)

運動疫学が果たす社会的役割—Paffenbarger先生を偲んで—……………27
下光 輝一 (東京医科大学公衆衛生学)

運動疫学の現状報告—新しい身体活動量評価方法の開発—……………28
原田亜紀子 (東京大学大学院医学系研究科)

運動疫学に期待すること—エビデンスレベルと情報発信……………30
山本精一郎 (国立がんセンターがん対策情報センター)

【一般演題】

シンプルな概念に基づき広い対象に適用できる自記式身体活動質問票の開発 31
今井（武田）富士美（国立がんセンターがん予防・検診研究センター）ほか

生活習慣におけるメタボリック症候群の交絡因子 32
森山 賢治（武庫川女子大学薬学部）ほか

地域の生活習慣病予防・改善のための行動変容プログラムにおける 33
身体活動評価の重要性とその位置づけについて
加藤 亮（武庫川女子大学生生活環境学部）ほか

加速度計データに基づく日常身体活動の分散成分の検討 35
原田亜紀子（東京大学大学院医学系研究科）

靴の適合性は地域在住高齢者の歩行能力・身体活動量に影響するか？ 36
平田総一郎（神戸大学医学部）

【第8回運動疫学セミナー開催報告】 37
劉 莉莉（運動疫学研究会事務局，早稲田大学スポーツ科学学術院）

「演習レポート」

1) 「健脚度®」が死亡および要介護への移行を予測するか？
—7年間のコホート研究—（報告者：岡田 真平） 39
荒尾 孝（早稲田大学スポーツ科学学術院）

2) 男性勤労者における体力および身体活動がうつ状態に及ぼす影響
（報告者：笹井 浩行） 41
荒尾 孝（早稲田大学スポーツ科学学術院）

3) 乳がん発症に対する過去の運動習慣の影響の調査（報告者：櫻井聡恵子） 44
井上 茂（東京医科大学公衆衛生学）

4) 身体活動量と前立腺がん発症のリスクの関係—コホート研究—（報告者：中村 富子） 47
原田亜紀子（東京大学大学院医学系研究科）

5) 職域における運動介入が身体活動量に与える影響
—メタボリックシンドローム予備群への保健指導—（報告者：柴田 陽介） 51
種田 行男（中京大学生命システム工学部）

インフォメーション

第11回 運動疫学研究会学術集会開催のご案内 55

第9回 運動疫学セミナーのご案内 55

運動疫学研究会会員・賛助会員募集のご案内 56

平成19年度運動疫学研究会運営委員会議事録 57

研究会からの情報提供について 59

運動疫学研究会会則 60

運動疫学研究会入会申込書 63

「運動疫学研究」投稿規定 65

INSTRUCTIONS FOR AUTHORS for Research in Exercise Epidemiology 67